

## 平成二十八年神田古本まつり（坤）

土屋 博

四 「山水大觀」大町桂月著（鍾美堂、大正六年刊、定價金貳圓五拾錢）

古書價格五百圓。天金。掘出物。我が國を代表せる古今名家の日本の山水につきての紀行文を地域別に編集したるものなり。著者による取捨選擇は漢詩文も含む點、幸田露伴編著の名著「掌中山水」（乾坤）に比し價值高き面さへあり。たとへば、臺灣の箇所を見るに、大久保甲東（利通）の「臺灣龜山陣營に宿す」を取り上ぐ。「大海波鳴つて月營を照す。誰か知らん萬里遠征の情。孤眠未だ結ばず家に還る夢。遙かに聴く中宵喇叭の聲。」

五 「山水めぐり」大町桂月著（博文館、大正十四年）四八八頁、奥付欠

古書價格二千圓。大町桂月本人の紀行文を纏めたるものにて、紀行文作家として一世を風靡したる桂月の面目躍如たるものあり。序に曰く、「世界を見渡すに日本人は最も脚が弱きやう也。娛樂は動もすれば人をして墮落せしめ身を誤らしむるが、登山に至つては精神を爽快にし健全にし高尚にし、知らず知らず修養に資し、知識を豊富にす。登山には艱苦を伴ふ。」と。

六 「偉人を語る」（三笠書房刊、昭和十一年刊、定價一圓五十錢）二八六頁

古書價格千円。「明治天皇の御鴻徳」につきては、田中光顕元宮内大臣の執筆。曰く、「田中、お前達は辭職といふ便利な方法あるも朕には其の途無し」との御一言を承りたる時は、冷汗背をうるほせり」と。

七 「近代文學研究叢書58」（昭和女子大學近代文學研究室、昭和六十一年刊、定價六千圓）五四四頁

古書價格千円。三宅雪嶺、伊良子清白、中島孤島、前田林外、茅野蕭蕭の五氏の著作、發表論文等を丹念に探索したる勞作なり。小生、三宅雪嶺の著作につきて永らく蒐集し居れば、之は便利なりと直ちに購入す。

八 「初等作詩法」森川竹溪著（文會堂書店、大正五年訂正七版、初版は大正四年。定價金壹圓）六三二頁

古書價格四百圓。天金。當時漢詩を作るに恰好の入門書たりけむ。

九 「憲兵必讀 普通學自修全書 全」大日本普通學講習會編纂（大日本普通學講習會蔵版、明治四十四年増訂第七版、定價金貳圓五拾錢）

古書價格三百圓。「警察官の學植を一日も忽せにすべからざるや必せる」との觀點に立つ、下級官吏の教養を高むる為の講義集なり。修身、國語、漢文、日本文法、作文法、習字法、英語、日本歴史、日本地理、算術、理化學、博物學、生理衛生學の十三教科を網羅す。たとへば、國語は畠山健先生（小生のかつての上司の祖父に當る。）の担当。